

## 四谷の

# 千枚田だより



第 114 号

された棟札や金石文から「郷」について次のように述べて

### 「四谷の千枚田」その変遷

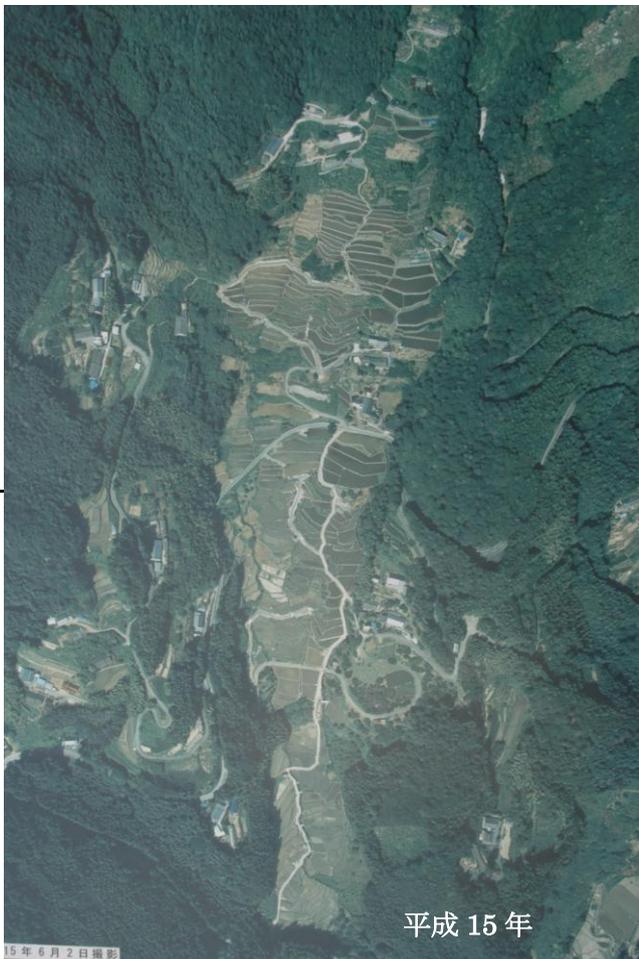
あまり根拠のない話になるが、今まで聞きかじった事を憶測で纏めてみた。まず、連谷地区には古代の遺跡はないが、合戸、下貝津地内から「矢じり」が発見されたことを聞くと縄文時代にはすでに、この地に人が住み狩猟民族として生活していたと思われる。

歴史を遡り「稲作」の始まりは平坦地でなく、湧水や谷合いから種などで取水したことが始まりである(舜の定説)。その事例として四谷の棚田は不動沢の湧水を利用して十王堂付近から下に、その後、田の口も不動沢の途中から囲水を引き田んぼを作った。その成果をみた大代の集落宇紙屋でも田の口で稲がでるならと、不動沢から山間に村中総出で石組みの水路五百<sup>り</sup>を明治四十三年に完成した。丸山俊明の先祖は、この一大事業の記念にと山津波の復旧工事をした三名の「九六鍬サ」により立派な石積の田んぼを造った。この地にいつごろから稲作が始まったかは定かでないが「設楽町誌・近世」によると神社、仏閣に残

いる。「田内郷」西田内伊豆神社の天文九年(一五四〇)の棟札に田内郷の銘が初めてみられる。田内郷は古来の黒瀬郷から独立し、東田内・西田内・小代・塩津・大代・田代(神田)・平山の各地を包括していたと記されている。また、「田内郷」を「種井郷」と記されたものもあったとある。地名から見ても水田に由来した地名が多いことから、この地での稲作はかなりの歴史があることが推測される。大代、小代集落は一世紀近くまでは寄合や庚申様と一緒に行っていた事などから設楽町と連谷は密接な関係にあったことには間違いない。昔、田んぼのあった所は「後山、与良木の百田、大林の棚田・隔し田」などがある。

写真は昭和三十四年と平成十五年に撮影されたものである。

観光客や識者に「休耕田がある。田んぼに杉檜を植えてあるのが残念だ。」とよく聞くが、何も好き好んで止めた訳ではない。国政でコメあまり対策に泣いた結果であることを理解してもらいたい。



平成 15 年

15年6月2日撮影



昭和 34 年

和34年10月15日撮影

## 伝統文化地域交流公演

平成二十五年一月二十七日(日)、身平橋西組共進連 二十四名は浜松市雄踏文化センター大ホールにおいて市無形文化財「念仏踊り はねこみ」を披露した。

出演は午後一時二十分からであったが、若い衆の意向で開演から参加しなければ失礼だ。との前向きな意見から演目の「川名ひよんどり」、「鳥原歌舞伎」を観劇。その、巧さに圧倒、「ビビリ」まくった。



## 伝統文化地域交流公演

いよいよ、出番！先導の高張り役宣ちや六十九才は緊張のあまりかちんこ

ちんの様だ。舞台上上がり「輪づくり」から「はねこみ」に入ると笛も太鼓も鉦も一心の乱れもなく、ぼんのくぼがゾクゾクするほど見事な出来映えで、観衆からやいのやいのの拍手を頂いた。

## 連谷小学校の田お越しと 田んぼ飛び



十二月十九日(木)、全校児童五名は来春五月の田植えに備え、学習田の田お越しを行った。冬場の田お越しは作土が凍ったり、霜柱が立ったりして土が生きかえる。また、土中の酸素補給や微生物の発生を促す効果(生物多様性)もあり、おいしいお米をつくる大切な作業である。

田んぼ飛び  
田お越しの後は四阿で給食を食べ、恒例の田んぼ飛びを行った。何回も飛んだが、今年もやっぱり先生が「ビリつけつ」であった。



## 施設整備

「ふるさと水と土ふれあい事業」において平成十五年に整備された施設の一部で老朽化がみられた。

昨年は「千枚田」を訪れる近郊都市部の常識ある見学者から「四阿の屋根の石が落ちそうだ。怪我をしたら誰が責任を持つだ。」などとご丁寧な苦情を頂いた。保存会は田んぼの保存には「国民の宝」として尽くしているが、施設の補修資金など、逆

さになってもない。その一抹を行政に泣きつき、昨年は「四阿」二棟の屋根換えが叶った。本年も「水車小屋とぼつとり」の屋根替えをして頂くこととなり二月八日、今泉雅男、夏目宏一、原田英史、高橋孝行、(舞)により作業を行った。百姓は都市近郊から訪れる皆さんに少しでも良い環境、雰囲気を提供できるように気を使っている。せめて、道で行き合った時ぐらい「大変だノン」とか「こ苦労さま」の一言があってもバチは当たらないと思うが、どうすらノン。



行 平成二十五年二月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文責 小山舜二